

日本女子大学
紀要
文学部

74

堀辰雄『あひびき』論あるいは「堀辰雄」とは何か ― AI時代の「作家」召還 ―	渡部 麻実…(1)
石川淳敗戦後作品史再論・「華嚴」「鷹」「鳴神」 ― 新資料を踏まえて ―	山口 俊雄…(15)
古浄瑠璃《こそでうり》から河東節《小袖模様》へ ― 詞章の地域差（シッパリ）と（ジュワーリ）など ―	坂本 清恵…(39)
日本語における家族内呼称の使用の変化に関する考察 ウオルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』（1882年） 試訳と注解（4） 「オスカー・ワイルド氏」（上）	田邊和子・岩田祐子・山本綾…(1)
……………川端康雄・井上亜紗・海老名恵・ 押田昊子・花角聡美…(13)	
アガサ・クリステイの田園 ― アガサ・クリステイ作品から読み解く20世紀イギリスの 田園の変遷（2） 1940年代から1950年代まで	坂田 薫子…(35)
事実と数字としての死者たち ― 不条理演劇における非人間性について ―	……………奥 畑 豊…(59)
沖縄語金武方言の3種の型の韻律特徴とその所属語彙 ― 琉球語の歴史研究の発展を目指して ―	……………松 森 晶 子…(83)
京都・洛中の「野畠」に関する歴史地理学的研究	……………伊 藤 寿 和…(111)
二〇二四年度卒業論文題目……………	121

2024年

日本女子大学

紀

要

文学部

74

2024年

JOURNAL

Faculty of Humanities

74

Changes of Family Kinship Terms in Japanese …………… TANABE Kazuko, IWATA Yuko, and YAMAMOTO Aya…(1)	
Walter Hamilton's <i>Aesthetic Movement in England</i> (1882): Japanese Translation and Notes (4) …………… KAWABATA Yasuo, INOUE Asa, …(13)	
…………… EBINA Megumi, OSHIDA Koko and HANAZUMI Satomi	
Agatha Christie and the English Countryside: Transformations of the Twentieth-Century English Countryside in Agatha Christie's Works, Part II: From the 1940s to the 1950s …………… SAKATA Kaoruko…(35)	
The Dead as Facts and Figures: Dehumanization in the Theatre of the Absurd…………… OKUHATA Yutaka…(59)	
A Study of Three Prosodic Patterns in the Kin Dialect of Okinawa for Future Historical Studies of the Ryukyuan Languages …………… MATSUMORI Akiko…(83)	
Historical geographical study on “nohata” in Rakuchu, Kyoto …………… ITO Toshikazu…(111)	
An Analysis of Hori Tatsuo's <i>Aibiki</i> or What Is “Hori Tatsuo”: Summoning the “Author” in the Age of AI …………… WATANABE Mami…(1)	
Reexamination on the history of ISHIKAWA Jun's works in the Postwar Period : in light of new materials …………… YAMAGUCHI Toshio…(15)	
From Ko-jōruri “Kosodeuri” to Katōbushi “Kosode-moyō”: A Study of Regional Variations in Lyrics, with a Focus on the Adverbs “Shippari” and “Jūwari” …………… SAKAMOTO Kiyoe…(39)	
Graduation Thesis Titles (2024), Faculty of Humanities, JWU ……………	(80)

Japan Women's University

2024

『日本女子大学 紀要 文学部』

編集規程

1. 本紀要は、文学部所属の専任教員に対して、研究を発表する場を提供することを目的とし、毎年3月に発行する。
2. 本紀要の編集は、文学部教授会において選出される3名の委員の構成する紀要委員会が行う。委員長は委員の互選による。
3. 本紀要に執筆できるのは文学部所属の専任教員とする。
4. 本紀要に掲載する論文は、単著・共著を問わない。ただし、共著の場合は、執筆者の少なくとも1名が本規程第3項に該当するものでなければならない。
5. 日本語論文の長さは400字詰め原稿用紙で30～100枚程度とする。欧文の場合はこれに相当する長さとする。
6. 紀要委員会は日本文学科・英文学科・史学科の各学科に400字詰め原稿用紙で同等の枚数を配当する。各学科はこの配当額と本規程第5項を勘案して執筆予定者を決定し、これを6月末日までに紀要委員会に報告する。原稿の締め切りは10月末日とする。
7. 論文の執筆者の抜刷は50部までを無料とし、それ以上は実費負担とする。

執筆要項

1. 原稿は横書き・縦書きいずれでもよい。
2. 原稿には欧文タイトル・ローマ字氏名・所属学科を明記すること。ただし欧文原稿には日本語タイトル・片仮名氏名・所属学科を明記すること。
3. 原稿はメモリースティック等電子フォーマットしたものと、プリントアウトしたもの2部とを提出すること。記録媒体には使用ソフト名と氏名を明記すること。
4. 校正は原則として再校までとし、著者が行う。

日本女子大学 紀 要 文学部 第74号

2025（令和7）年3月18日発行

編集委員 坂田薫子（委員長）、田中大士、白杵陽
発行所 日 本 女 子 大 学
〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1
電話 03(5981)3500（代表）
印刷所 株式会社 秀 飯 舎
〒331-0058 埼玉県さいたま市西区飯田70
電話 048(624)1121

本誌掲載の諸論文は、執筆者の日本女子大学への許諾にもとづき、日本女子大学によって電子化複製され、公衆送信されます。